



TITLE:

京大広報 No. 219

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 219. 京大広報 1981, 219: 135-140

ISSUE DATE:

1981-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209467>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 219

京都大学広報委員会



磁気テープの磁性粉の配列状態 —関連記事本文 137 ページ—

(粒子1個1個は見えないが、全体として粒子が一方方向に並んでいる状態がわかる。)  
(市販のテープは表面を押えて平滑にしているため、この写真とはやや異なる。)

## 目 次

創立記念式典の挙行.....	136
6月17日の事態と現場検証 および6月22日の捜索.....	136
附属図書館の新営.....	136
<紹介> 化学研究所・新無機合成開発施設.....	137
放射性同位元素総合センター 創立10周年記念講演会.....	138

<随 想> 合成化学教室創設の頃 名誉教授 古川 淳二...	138
<保健コーナー> 無自覚性蛋白尿の意義.....	139
白馬山の家 of 夏季開設.....	140
体育館附属プールの夏季利用.....	140

## ＜大学の動き＞

## 創立記念式典の举行

6月18日(木)、本学創立84周年記念式典が、名誉教授、部局長ら関係者多数の出席を得て、京大会館において举行された。

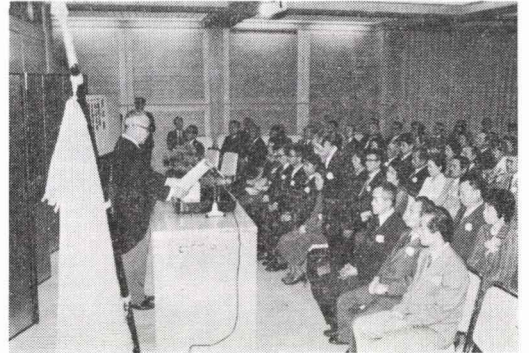
この日の式典は、午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続者の表彰、永年勤続者代表の答辞に続いて、木村 廉名誉教授の発声により本学の発展を祈念して万歳三唱が行なわれ、午前10時45分終了した。

本年の勤続30年表彰者は34名、勤続20年表彰者は91名、計125名である(被表彰者氏名は6月19日学報第3935号に掲載した)。

総長はこの日の式辞の中で、これら永年勤続者の労をねぎらうとともに、この一年間における本学の動向にふれ、研究・教育の場としての条件整

備、研究体制の整備充実、国際学术交流などの現況と、最近の西ドイツにおける大学での基礎研究の推進状況について詳しく述べた。

引き続き11時から同会館2階会議室で名誉教授懇談会が、また11時50分から1階講演室で永年勤続者のためのパーティがそれぞれ開催された。



## 6月17日の事態と現場検証

## および6月22日の搜索

6月17日(木)、ヘルメット着用者を含む熊野・吉田寮寮生を主とする100余名の学生集団が正午すぎから教養部構内において集会を開き、その後、構内示威行進に移り、総長室前の廊下に進入し、職員2名に暴行を加え、総長室入口扉の一部を破壊した。その後、引き続き学生部長室前の廊下にも進入し、学生部次長等の職員に暴行を加え、学生部長室の扉の一部を破損した。

総長室前における学生の行為に対して、警察への被害の届出がなされ、警察の現場検証が総長室の扉、総長室前の廊下および階段の一部について行なわれた。検証は関係者立会いの上、同日午後4時すぎから始まり同6時すぎに終了した。

さらに6月22日(月)、上記の学生部職員に対する暴力行為ならびに傷害の被疑事件について、警察による搜索が突然行なわれ、関係部局長等の立会いの上、午前7時すぎから始まり同8時20分頃終了した。

搜索は、文学部学友会ボックス、農学部自治会ボックス、教養部尚賢館、熊野寮委員会室および

吉田寮委員会室について行なわれ、ヘルメット、ビラ等が押収された。

## 附属図書館の新営

京都大学附属図書館の新営については、かねてより附属図書館商議会を中心に検討が進められ、その早期実現が望まれていたが、このたび昭和56年度予算において、この新営が認められ、今秋着工の運びとなり、昭和58年度内に完成の予定である。

新築される図書館の概要は、次のとおりである。

1. 位 置 現在地(本学本部構内)
2. 建物面積 延約14,000㎡
3. 構 造 鉄筋コンクリート造  
地上4階 地下2階

具体的な建築計画は、施設部において作成中である。

なお、附属図書館では、この新営計画の概要並びに新営に伴う当面の移転措置等について附属図書館報『静脩』号外(1981年6月)で発表した。

(附属図書館)

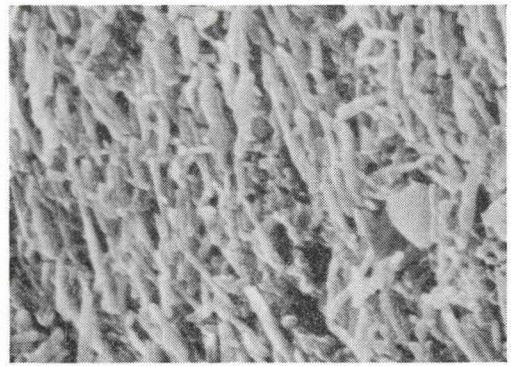


## &lt;紹介&gt;

## 化学研究所・新無機合成開発施設

本施設は磁性体等の無機物質の合成反応に関する基礎研究及び新材料の開発を行なうことを主な目的として、昭和50年4月、化学研究所に設置された。本施設は教授、助教授、助手各1名からなり、当初は化学研究所5階の一部で研究を行ってきたが、昭和53年度に研究室及び実験室が新設され（延240㎡）、54年度に移転した。研究設備として、高真空蒸着装置、赤外線集中加熱炉をはじめ無機合成関連設備、走査型電子顕微鏡、メスパウアー効果分析装置等材料解析装置が設置されるなど研究態勢が整い、急ピッチで研究が進んでいる。

無機材料関連物質の合成反応の基礎研究を行い、その結果いくつかの新合成法を見出した。ところがその成果は、思いがけない応用へと展開してきている。



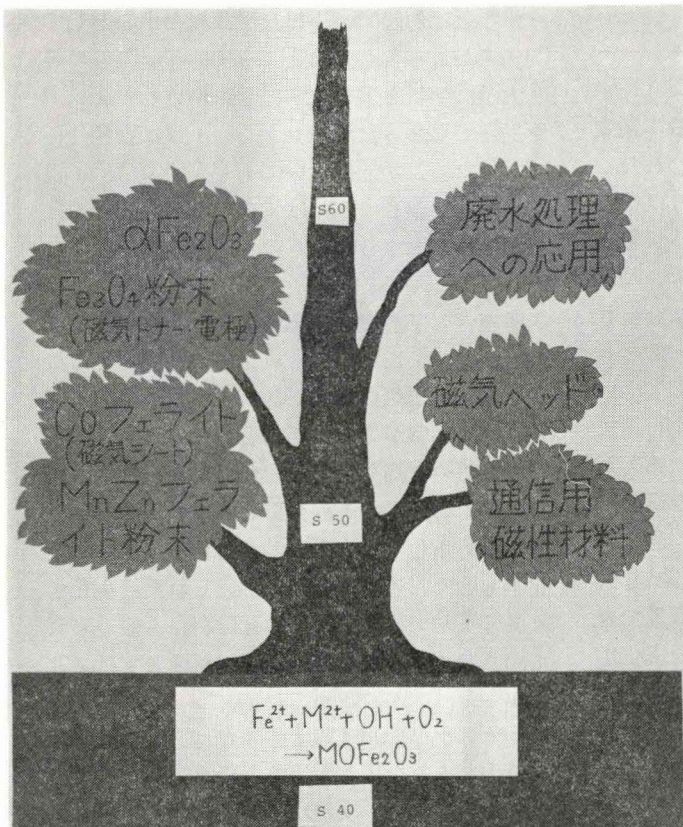
ビデオ用磁気テープの磁性粉末の配列状態（×22,000）

例えば、水溶液からの沈澱反応の研究成果から、世界で最も優れたビデオおよびオーディオテープ用磁性粉が生まれた。写真に示すように、高性能テープでは長さが約0.4ミクロンの針状磁性粒子が一樣に同じ方向に向いたものであるが、このように配向性のよい磁性微粒子は基礎的な合成反応の研究の成果によりつくられたものである。

同じく沈澱反応の研究から磁性複合化合物（フ

ェライト）の合成に成功し、その成果は、左図に示すように多くの応用へと発展してきた。この中で環境問題に対して寄与した例として、黒色酸化鉄顔料（高級品としては1万円札の黒色）、赤色酸化鉄顔料の無公害製造法および廃液中の金属除去技術への応用が挙げられる。後者は一般に「フェライト法」と呼ばれ、その特徴はフェライトとして多種類の重金属の同時除去、フェライトの磁気分離、フェライトの再利用が可能なことであり、このため多くの大学、研究所等に採用されている。本学においても環境保全センターにフェライト法的大型設備が設置され、順調に移動している。

さらに身近な応用例は、化粧品などに白色顔料として使用されている酸化チタンの合成研究から、皮肉にも高級黒色顔料が生まれたことである。人体に無害であること、色むらのないことで高級化粧品として使用されている。



湿式法スピネルフェライト粉末の応用





すと、各年齢層とも半数以上は陰性になります。尿の蛋白反応はそれほどに不安定で気まぐれなものです。2回目の検尿でも陽性を示した者について精密検査を行なうのが一般的な手順です。それは持続性に蛋白尿を認める場合に腎臓病である確率が高いからです。

さて、学生の5~8%に認められる蛋白尿の中で、明らかな腎・尿路疾患あるいはその疑いの者はおおよそ1/10にすぎません。そして、腎炎またはその疑いの者は全学生の0.3~0.4%です。腎炎のほかには腎・尿路の結石、腎結核、うっ血腎、腎出血、尿路炎症、血色素尿、チヌチン尿、尿路奇型など、さまざまな病気が発見され、早期に適切な治療を行なうことができます。教職員の場合にはこれらの疾患のほかに悪性腫瘍、前立腺疾患、腎硬化症、心臓・血管病なども時に発見されることがあります。

#### 持続性蛋白尿と学生の就職

現在、日本のほとんどの企業では、採用時の健

康診断の一項目として尿検査が行なわれていきます。このとき偶々蛋白尿が発見されまると、採用の可否をめぐるしばしば問題が生じます。

無自覚性に蛋白尿が発見され、何らかの病気が疑われる場合には、臨床的な経過観察と平行して、必要な種々の精密検査を行なって原因を探ることになりますが、正確な診断までにはかなりの日数を必要とする場合が多いものです。就職健康診断を受けてから採用決定までには時間的余裕が十分でないために、正確な診断ができにくいことも、採用可否問題をこじらせる一つの原因であるようです。従って、在学中に蛋白尿の指摘をうけたことのある学生は、十分な臨床観察と必要な検査を受けて、その病態を把握しておくことが必要でしょう。

蛋白尿の指摘を必要以上に心配したり、反対に無視したりすることなく、適切な事後指導を受けたいものです。

(保健管理センター 北村李軒)

### 白馬山の家の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている白馬山の家を、今夏も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の樹池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山及び避暑などに最適です。

なお、建物は、山小屋風の木造地上2階地下1階建てで、間取りは、1階が食堂兼談話室、2階が寝室(ベッドで42名収容)、地階が浴室、乾燥室等になっています。

#### 記

1. 名 称 京都大学<sup>はくば</sup>白馬山の家
2. 所 在 地 長野県北安曇郡小谷村大字千国<sup>あずみ おたり ちくに</sup>字柳久保乙869の2

(交通機関)

国鉄大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親<sup>おや</sup>の原<sup>はら</sup>」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 7月10日(金)から8月20日(木)まで

4. 所要経費 1人1泊 使用料80円、ほかに食費等実費程度

5. 申し込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話学内2574)あてにしてください。

### 体育館附属プールの夏季利用

本学教職員及び学生は、体育館附属プールを下記により利用できます。詳細については、学生部厚生課厚生掛(西部構内体育館内、電話学内2590)に照会してください。

#### 記

期間 7月20日(月)から8月31日(月)まで  
ただし、土曜日と日曜日は使用できません。

時間 正午から午後2時まで

(注 意)

1. 都合により使用を休止する日もあります。
2. 利用に際しては、必ず職員証または学生証を呈示してください。

(学生部)